

# 令和6年度 公共事業事後評価調書

## 1. 事業説明シート

(区分) (国補) ・ 県単

事業名	林道事業 [森林管理道開設事業 (国補)]		事業箇所	甲州市勝沼町深沢～ 甲州市塩山牛奥	地区名	源次郎線	事業主体	山梨県
(1) 事業着手年度	平成13年度	(2) 事業期間	H13 ～ R1		(3) 完了後経過年数	5年	(4) 総事業費	1,576百万円
(5) 事業着手時点の課題・背景					(8) 事業位置図等			
<p>本路線は甲州市（旧勝沼町）のほぼ中央に位置し、源次郎岳から棚横手山にかけての森林を適切に整備・管理することを目的とした、総延長6,931mの森林管理道である。                  利用区域面積486haのうち、カラマツ、ヒノキ等の人工林が315haと約65%を占めているが、この区域には路網が未整備であったことから、本路線の整備に至ったものである。                  また、利用区域の一部にはヒノキ人工林を主体とした民有林があり、その区域の森林整備を効率的に進めるための林道の整備について甲州市から要望されたことから、県と市が連携して事業を計画した。</p>								
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果								
<p>□主要目標 ○森林整備の効率化                  (森林の持つ公益的機能の維持向上や林業生産の効率化等を図る)</p> <p>□副次目標 ○なし</p> <p>□副次効果 ○防火帯・延焼遮断帯の確保                  ○リサイクルの推進</p>								
(7) 整備内容 (目標達成の方法)								
<p>事業概要</p> <p>森林管理道の開設</p> <p>計画延長 6,931m 幅員 4.0m</p> <p>利用区域面積 486ha 森林資源蓄積量 51,472m<sup>3</sup></p>								

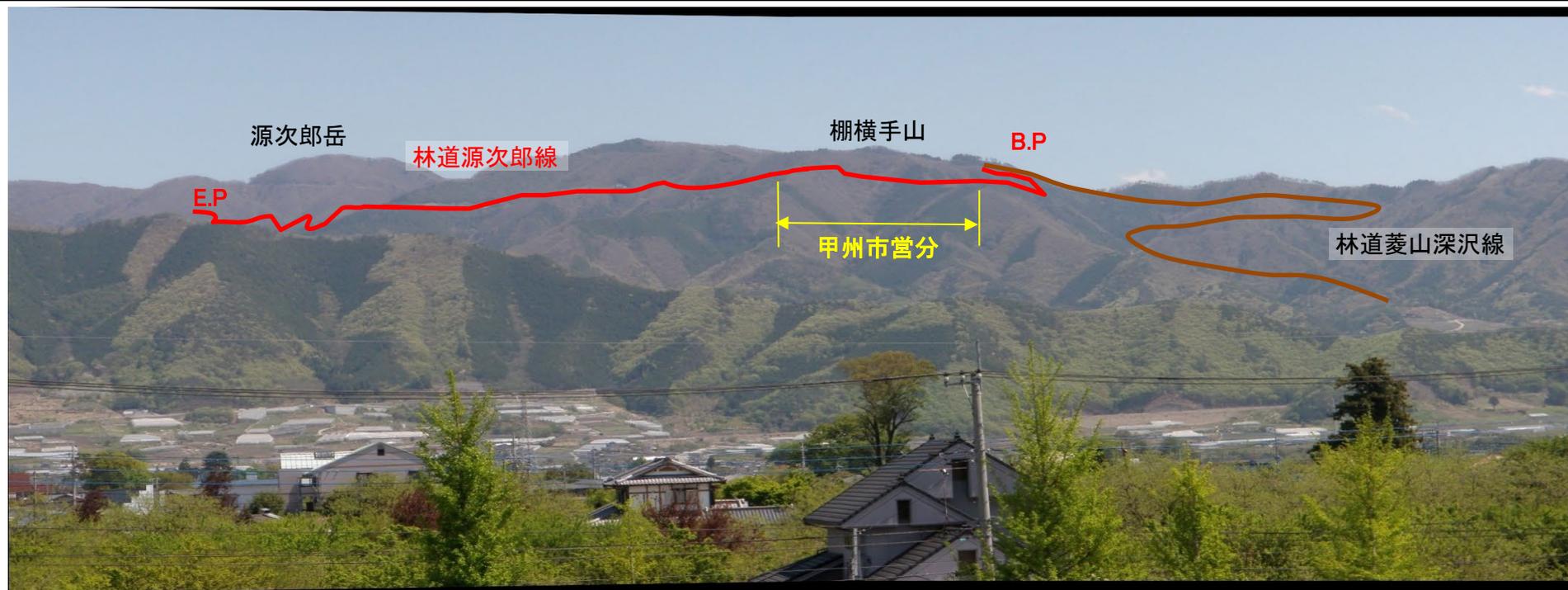
## 2.評価シート(1)

(1) 事業貢献度 <span style="float:right">(良・不良)</span>		(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 <span style="float:right">(有・無)</span>																																																																								
<p>(理由)</p> <p>本路線の完成により、森林施業を効率的に実施できる基盤が整い、利用区域内の人工林の75%のエリア(235ha)において間伐等の森林整備が実施され、森林の公益的機能の維持増進が図られている。</p> <p>また、事業実施前は伐り捨てとなっていた間伐材1,077m<sup>3</sup>が木材市場等へ搬出され、木材として有効利用されるなど、事業効果が発現している。</p> <p>①主要目標 森林整備の効率化</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>事業着手時点数値等</th> <th>事後評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩30分範囲内の人工林率</td> <td>5.7%</td> <td>78.6% (基準値70%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価</p> <p>○利用区域内の人工林の約8割のエリアに徒歩30分以内で到達できるようになり、作業員の負担が大幅に軽減されたことで、伐採・造林・保育などの作業の効率化が図られている。</p> <p>○「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源を循環利用するための土台が整い、森林を活かす持続的な林業経営が期待できる。</p> <p>○既存の木材市場への出材に加え、木質バイオマス発電所や大型合板工場など、新たに県内で稼働開始した施設からの需要に応じた木材供給が成されている。</p> <p>○間伐などの森林整備や治山事業の実施により、水源涵養や山地保全などの森林の公益的機能が高まっている。</p> <p>②副次目標 なし</p> <p>③副次効果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防火帯・延焼遮断帯の確保</td> <td>林野火災時の防火帯としての機能が期待できる。</td> </tr> <tr> <td>リサイクルの推進</td> <td>従来伐り捨てとしていた間伐材や工事支障木を丸太柵工等として有効活用した。また、再生砕石を路盤材として利用した。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況 なし</p>		指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	徒歩30分範囲内の人工林率	5.7%	78.6% (基準値70%)	項目	内容	防火帯・延焼遮断帯の確保	林野火災時の防火帯としての機能が期待できる。	リサイクルの推進	従来伐り捨てとしていた間伐材や工事支障木を丸太柵工等として有効活用した。また、再生砕石を路盤材として利用した。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>着手時点</th> <th>再々評価時点</th> <th>事後評価時点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>2,170 百万円</td> <td>1,565 百万円</td> <td>1,576 百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H13~H27</td> <td>H13~H29</td> <td>H13~R1</td> </tr> <tr> <td>評価基準年</td> <td>H13</td> <td>H28</td> <td>R6</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>— 百万円</td> <td>1,813 百万円</td> <td>3,163 百万円</td> </tr> <tr> <td>建設費</td> <td>— 百万円</td> <td>1,772 百万円</td> <td>3,030 百万円</td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>— 百万円</td> <td>41 百万円</td> <td>133 百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>百万円</td> <td>百万円</td> <td>百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>— 百万円</td> <td>2,173 百万円</td> <td>3,693 百万円</td> </tr> <tr> <td>木材生産</td> <td>— 百万円</td> <td>706 百万円</td> <td>1,124 百万円</td> </tr> <tr> <td>森林整備経費縮減※1</td> <td>— 百万円</td> <td>1,234 百万円</td> <td>2,085 百万円</td> </tr> <tr> <td>災害等軽減</td> <td>— 百万円</td> <td>217 百万円</td> <td>457 百万円</td> </tr> <tr> <td>維持管理費縮減</td> <td>— 百万円</td> <td>16 百万円</td> <td>27 百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C※2</td> <td>未算出</td> <td>1.20</td> <td>1.17</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 造林、治山、森林管理の各作業経費の縮減のほか、水源涵養、山地保全など公益的機能の高まりを評価</p> <p>※2 費用便益比(B/C)は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。</p> <p>(要因変化の分析)</p> <p>○総事業費 労務費や資材価格の高騰などの影響で、再々評価時点から事業費が増額となった。</p> <p>○工期 一部区間の地質が脆弱であったため、対策工法の検討に長期を要し、工期の延長を余儀なくされた。</p>				項目	着手時点	再々評価時点	事後評価時点	総事業費	2,170 百万円	1,565 百万円	1,576 百万円	工期	H13~H27	H13~H29	H13~R1	評価基準年	H13	H28	R6	経済効率性	費用	— 百万円	1,813 百万円	3,163 百万円	建設費	— 百万円	1,772 百万円	3,030 百万円	維持管理費	— 百万円	41 百万円	133 百万円		百万円	百万円	百万円	便益	— 百万円	2,173 百万円	3,693 百万円	木材生産	— 百万円	706 百万円	1,124 百万円	森林整備経費縮減※1	— 百万円	1,234 百万円	2,085 百万円	災害等軽減	— 百万円	217 百万円	457 百万円	維持管理費縮減	— 百万円	16 百万円	27 百万円	B/C※2	未算出	1.20	1.17
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																																								
徒歩30分範囲内の人工林率	5.7%	78.6% (基準値70%)																																																																								
項目	内容																																																																									
防火帯・延焼遮断帯の確保	林野火災時の防火帯としての機能が期待できる。																																																																									
リサイクルの推進	従来伐り捨てとしていた間伐材や工事支障木を丸太柵工等として有効活用した。また、再生砕石を路盤材として利用した。																																																																									
項目	着手時点	再々評価時点	事後評価時点																																																																							
総事業費	2,170 百万円	1,565 百万円	1,576 百万円																																																																							
工期	H13~H27	H13~H29	H13~R1																																																																							
評価基準年	H13	H28	R6																																																																							
経済効率性	費用	— 百万円	1,813 百万円	3,163 百万円																																																																						
	建設費	— 百万円	1,772 百万円	3,030 百万円																																																																						
	維持管理費	— 百万円	41 百万円	133 百万円																																																																						
		百万円	百万円	百万円																																																																						
	便益	— 百万円	2,173 百万円	3,693 百万円																																																																						
	木材生産	— 百万円	706 百万円	1,124 百万円																																																																						
	森林整備経費縮減※1	— 百万円	1,234 百万円	2,085 百万円																																																																						
	災害等軽減	— 百万円	217 百万円	457 百万円																																																																						
	維持管理費縮減	— 百万円	16 百万円	27 百万円																																																																						
	B/C※2	未算出	1.20	1.17																																																																						
		<p>(3) 事業実施による環境の変化</p> <p>①自然環境への影響 間伐等の実施により森林内の光環境が改善されたことで、下層植生が繁茂するなど、健全な森林が育成されている。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 なし</p> <p>③環境保全対策の効果発現状況(措置を講じた場合) なし</p>																																																																								
		<p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</p> <p>①社会経済状況の変化 なし</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化 なし</p> <p>③事業環境等の変化 なし</p>																																																																								

評価シート（2）

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 <span style="float: right;">〈有・<del>無</del>〉</span></p> <p>(理由)          本路線の利用区域内森林については、県有林は「第4次県有林管理計画」、民有林は「甲州市森林整備計画」に基づき、それぞれ計画的に森林整備が行われることが確実であるため、再度の事後評価の必要性はないと思われる。</p> <p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法          ・時期：            年度          ・方法：</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈有・<del>無</del>〉</span></p> <p>(理由)</p> <p>なし</p> <p>(具体的反映策)</p> <p>なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 <span style="float: right;">〈有・<del>無</del>〉</span></p> <p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果)</p> <p>なし</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈有・<del>無</del>〉</span></p> <p>(理由)</p> <p>なし</p> <p>(具体的反映策)</p> <p>なし</p> <hr/> <p>(9) その他特筆すべき事項 <span style="float: right;">〈<del>有</del>・無〉</span></p> <p>民有林内の一部区域は地元小学校の学校林となっており、児童とPTAが中心になり、森林環境教育の一環として植栽や下刈などの森林整備活動を行っている。          こうした活動を通し、森林の持つ公益的機能や森林管理の重要性について子供たちの理解が深まっている。</p>

### 3.添付資料シート(1)



① 源次郎線遠景



② 完成状況

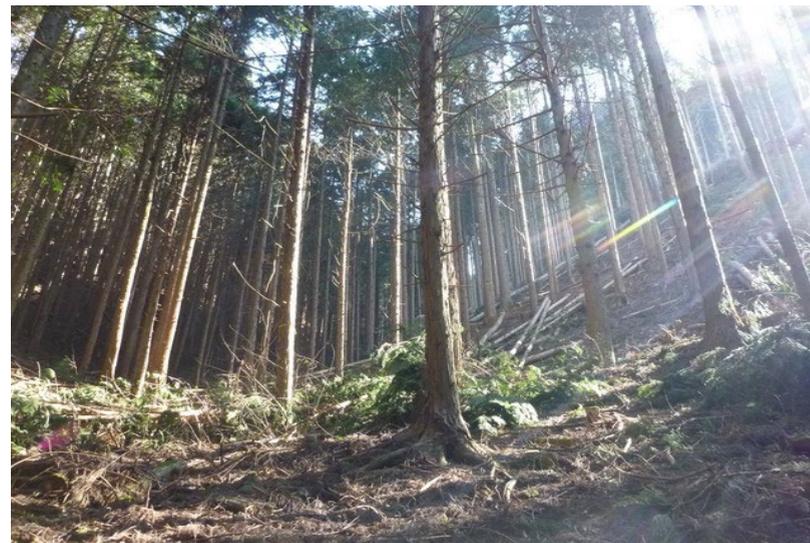


③ 伐採後の植付状況

### 3. 添付資料シート (2)



④ 林内の状況(間伐前)



⑤ 林内の状況(間伐後)

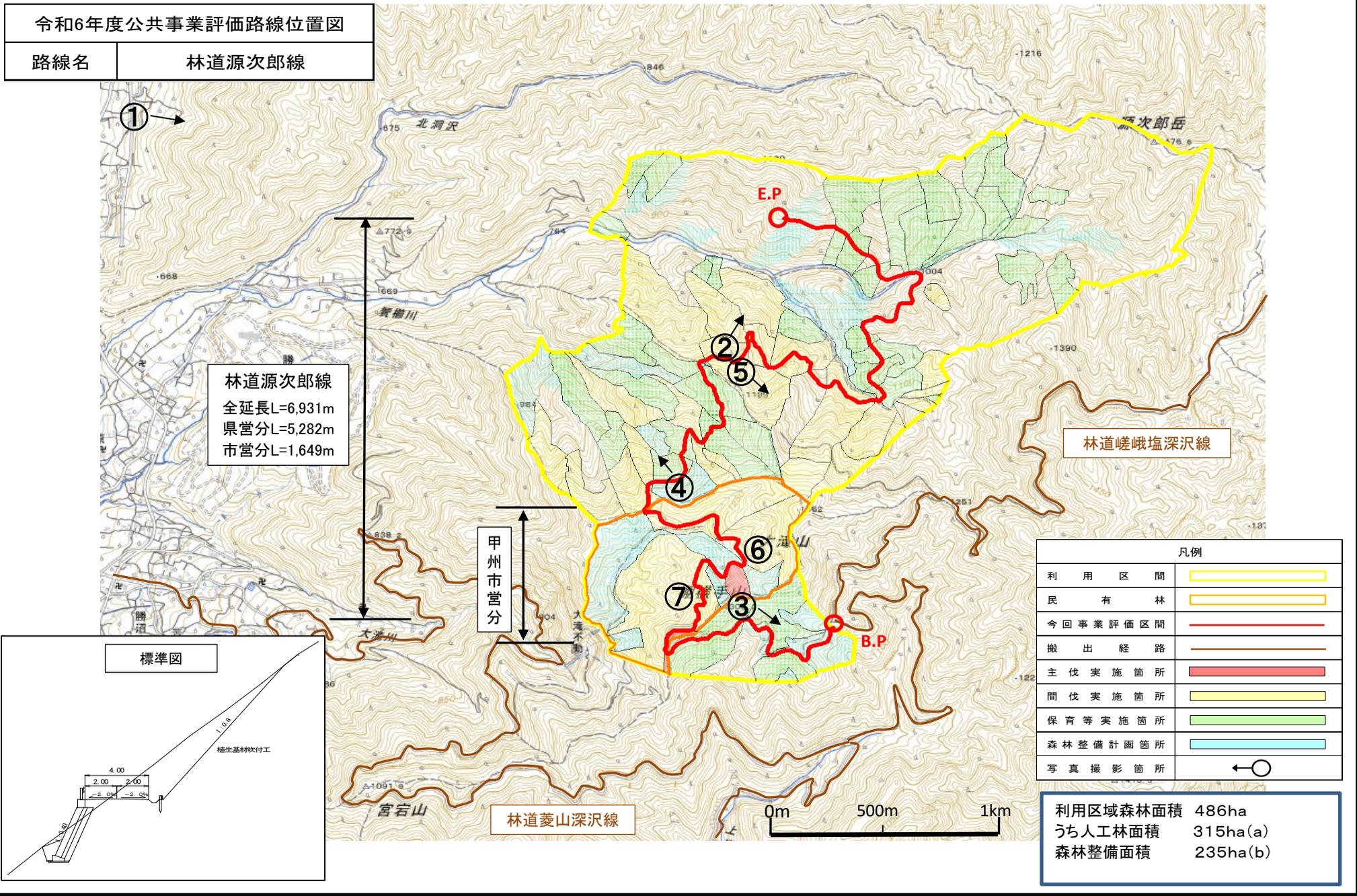


⑥ 収穫した木材の搬出状況



⑦ 地元小学生による森林整備活動(植栽)

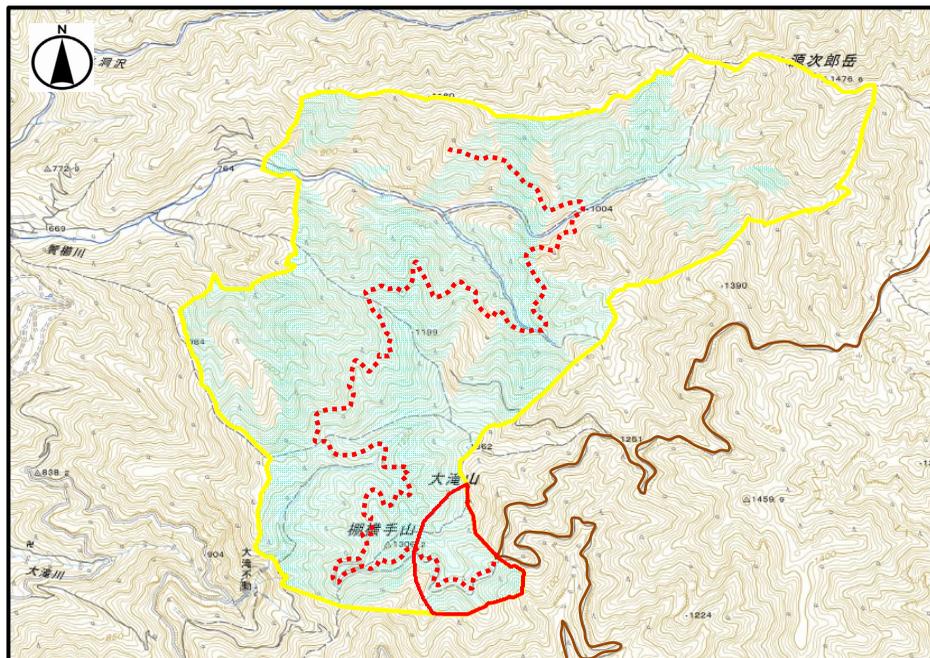
### 3.添付資料シート(3)



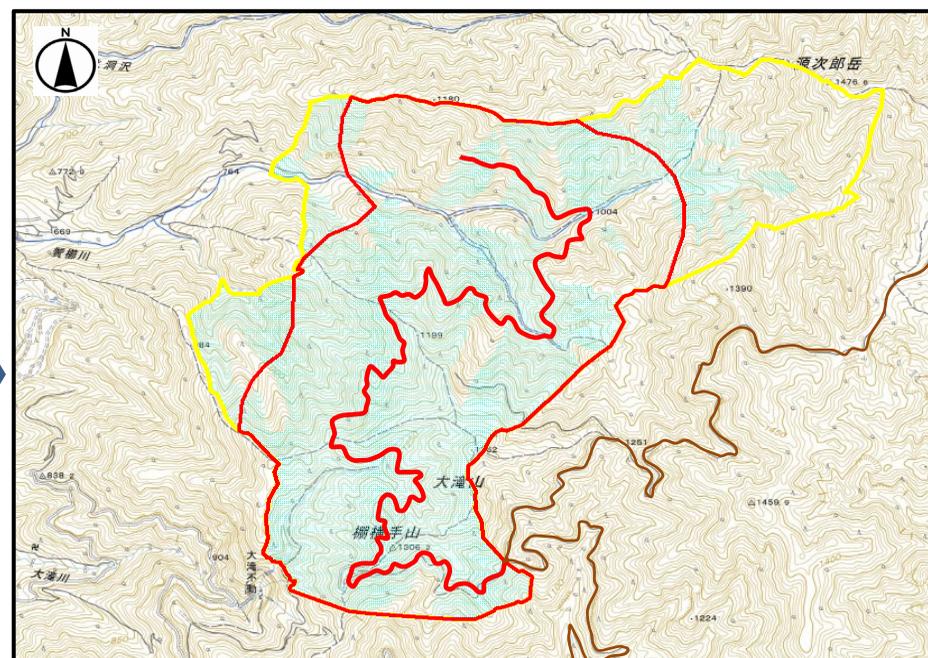
### 3.添付資料シート(4)

徒歩30分以内に到達できる範囲内の人工林率

事業実施前:5.7%



事業実施後:78.6%



※ 徒歩30分以内に到達できる範囲内の人工林率:基準値70%

-  利用区域
-  利用区域内 人工林
-  徒歩30分圏内人工林

## 年度別事業実施状況

年度	事業費（千円）	事業概要	延長内訳		進捗率※
			県	甲州市	
H13	71,000	林道開設 L=148m	148m	—	4%
H14	116,000	林道開設 L=370m	370m	—	11%
H15	52,000	林道開設 L=241m	241m	—	15%
H16	66,000	林道開設 L=476m	476m	—	19%
H17	87,000	林道開設 L=431m	431m	—	24%
H18	93,000	林道開設 L=373m	223m	150m	30%
H19	96,000	林道開設 L=450m	318m	132m	36%
H20	66,000	林道開設 L=239m	239m	—	41%
H21	160,000	林道開設 L=864m	636m	228m	51%
H22	—	—	—	—	51%
H23	86,000	林道開設 L=489m	345m	144m	56%
H24	160,000	林道開設 L=958m	792m	166m	66%
H25	115,000	林道開設 L=594m	330m	264m	74%
H26	103,636	林道開設 L=379m	222m	157m	80%
H27	75,219	林道開設 L=236m	127m	109m	85%
H28	83,915	林道開設 L=271m	109m	162m	90%
H29	104,535	林道開設 L=308m	171m	137m	97%
H30	—	—	—	—	97%
R1	41,208	林道開設 L=104m	104m	—	100%
合計	1,576,513	林道開設 L=6,931m	5,282m	1,649m	

※進捗率＝実施延長／総延長×100